

「自分の家族を思うように、 この地域を見守りつづけたい…」

紫竹学区 民生児童委員 山田 靖子さん

聞き手 苅谷 利幸

今回は、紫竹学区で民生委員歴10年の山田靖子さんにお話を伺いました。

民生委員を引き受けたきっかけは、女性会の会長さんからの声かけで、「何かお手伝いできれば」と気軽な気持ちで承諾させてもらいました。ここまで続ける事が出来たのも家族の理解と、自宅での仕事があるなかでも動ける時に集中して活動をしてきた事があげられます。

この間で、印象深い出来事としては、3年程前に、95歳で一人暮らしの女性に出会ったことです。私たちの訪問をきっかけに、「物をとられた」「書き方がわからん」等の認知症もあって、老人福祉員によく電話がかかってきました。また、家の前を通るたびにお体の事や冬場のストーブ事が気になって、よく訪問していました。でも訪問するとご本人の昔話に花が咲いて、ついつい時を忘れることもたくさんありました。

接し方は、わからないことだらけで手探りでしたが、笑顔絶やさないと心がけていました。その方も、ヘルパーさんや配食弁当を利用して生活された後、施設に行かれたので1年程の関わりでした。その時の経験は、「今後のお年寄りの一人暮らしは、どうなるのだろう?」と考えるきっかけになりました。

日常的な活動としては、3町内の訪問活動をはじめ、毎月の高齢者対象のほっとほっとふれあいサロン(音楽会・防犯教室等)や年3回程の子育て支援“おしゃべりクラブ・バンブー”(栄養士・保母さんのお話等)など、お手伝いをしています。また、生活保護の方々にも配り物を届けたりして、そこの子供さんから「牛乳屋さんのおばちゃん」と声をかけてもらおうと、うれしいです。

今後の抱負として、「もっと地域に向いて、自分からもっと動けるようになりたい」「自分のことを民生委員として、知ってもらって声をかけやすい関係をつくりたい」等々とても、元気が出る・勇気づけられるお話伺うことができました。

今回初めてお会いして、山田さんの冷静さの中に、ほんわりとした地域を見つめる優しさにふれることが出来ました。民生委員さんたちが、地域の身近な存在になられることで、お互いの最初の一步の相談事が踏み出しやすく、気づきも早くなって、地域の方々との距離も縮まり安心感につながるのではないのでしょうか。今後共よろしく願います。



「御恩返しので…」

待鳳学区 老人福祉員 山森 博子さん

聞き手 藤田 光里

平成10年頃から老人福祉員として活動されています、山森博子さんにお話を伺いました。

「こんにちは!お風呂屋の博子ですー!元気にしてはりますか?」こんな感じで、一人暮らしの高齢者の方を尋ねています。「老人福祉員です」と声をかけると、「それなんです?」と訝しい顔をされたり、「そんなものは必要ない」と玄関先で断られたりということがあり、「これって、本当に必要な役なのかな?」とずっと思っていました。

そのなかでも、少しずつ、私に相談して頂けるということも増えてきました。昭和21年に祖父が開業して以来、長年この地で風呂屋を営んでいるおかげで、私を受け入れてくださるのだなと大変嬉しく、ありがたく思います。その御恩返しのため、この役を続けさせて頂いています。

お客さんから、「Aさんが少しおかしい…昼夜問わず家に来たり、電話をかけてきては同じことを繰り返し話される」と聞いたので、包括センターに連絡しました。速やかに対応していただき、夕食の配食サービスや、薬を飲んでいるかの確認まで行えるようになりました。なにより、息子さんが毎週訪問して下さるようにもなりました。

また、全く身寄りのない方が「どこか入所したいけれど、どうしたらいいの?」と友達に聞かれた時、「お風呂屋さんに聞いたら?」との事で、話を伺いました。これも包括センターに連絡し、対応して頂き、本人もとても安心されました。私自身も、民生委員さんや仲間の存在、包括センターがあることで、最近心は軽くなりました。皆さんの支えや繋がりがあるからこそ、出来るお仕事だと思っています。

最近尋ねた方に、「80歳になった記念に、背泳にチャレンジしてんねん!」という言葉聞き、びっくり。元気な方もたくさんおられて、そのパワーに私が元気をもらいます!

そして、『これ、また御恩返しのために頑張らねば』と思うのです。

自分の知っている方、自分のことを知って下さっている方が、住みなれた家で安心して暮らして欲しい。そのために、私が出来ることをお手伝いしたいという思いで、これからも活動させて頂きたいと思えます。

小学生の頃から、番台にたつお母さんの横で、お風呂屋さんという立場でこの地域を見守ってこられた山森さん。お話を聞いていて、活気に満ちた笑顔のなかに、あふれんばかりの温かさを感じました。支援の必要な人を、福祉の手へと繋ぐために老人福祉員さんの存在はとても大きいです。時代の流れでお客さんは減っていると話されますが、みんなが集い、顔をあわせることのできる居場所として、これからも守り続けて頂きたいですね。